

SUPER GT 2025

Rd.05 SUZUKA

GT 300km

Qualifying



ホームコースともいえる鈴鹿サーキットで
今季最高のパフォーマンスを発揮し予選 Q1
を3番手で突破すると、予選 Q2 でもタイム
を伸ばし 4位を獲得

日付 : 8月 23 日

天候 : 晴れ

コース : 鈴鹿サーキット

23日 : (予選時 Q1)

気温 : 34°C、路面温度 : 47°C

今シーズンも年間8戦のシリーズで競われているAUTOBACS SUPER GT 2025 SERIES。4月に岡山国際サーキットで開幕し、

8月上旬の富士スピードウェイ大会で半分となる4戦が終了した。後半のキックオフとなるのは「SUZUKA GT 300KM RACE」

で、8月23日(土)に公式練習と予選、24日(日)に決勝レースが実施される。

前半戦は第3戦がマレーシアで実施された6年ぶりの海外ラウンドで、前回の第4戦は初の試みとなるスプリントレース。そのため、SUPER GTが用いる通常のフォーマットでのレースはゴールデンウィークに開催された第2戦以来となる。

今季からLC500 GTにマシンをスイッチしたLMcorsaだが、第4戦を終えて獲得したのは4ポイントのみ。本来のパフォーマンスをなかなか発揮できていない。GR Supra GTに比べてホイールベースが延長されたことにより、高速コーナーでの安定性やスピードは引き上げられているが、低速コーナーからのトラクションに悩まされている。また、タイヤのグリップ性能を引き出すことにも苦慮していて、エンジニアとドライバーはチーム側で対応できることを考え続けてきた。

第5戦の舞台となる鈴鹿サーキットでは5月にGTエントラント協会のテストが行なわれていて、その際にはコンディションに合ったタイヤとセットアップが見つかっていた。そのため、今大会での挽回が期待された。



走り始めとなった公式練習は、10時10分からスタートの予定だったが併催カテゴリーの予選で中断があったため10時20分にディレイ。15分間のFCY(フルコースイエロー)テストを挟み12時10分までの2時間で、予選と決勝レースに向けたセットアップやマシンと路面のコンディションを見極めることになった。LC500 GTには吉本大樹選手が乗り込み、まずはマシンの状況を確認した。4周目には1分59秒422をマークし、この時点でのトップタイムとなった。それでも印象の良かった5月の状況に比べて乗りづらさを感じたそうで、セットアップの調整を繰り返した。公式練習の開始から約1時間が経過したところで、吉本選手から河野駿佑選手にバトンタッチ。コースインすると決勝レースを想定したシミュレーションやセットアップの調整も引き続き行なった。最後にはGT300クラスの専有走行が設けられていて、そのタイミングでニュータイヤを装着。32周目に自己ベストタイムを1分59秒067まで伸ばし、GT300クラスの28台中3番手となった。



<予選>

公式練習では久しぶりに上位のタイムをマークし、LC500 GTのパフォーマンスを引き出すことに成功した。今大会の予選Q1もGT300クラスは2組に別けられて競われ、LMcorsaはA組からの出走となった。

チームは河野選手を予選Q1の担当ドライバーに指名すると、10分間のタイムアタックに臨んだ。コースオープンとともにウォームアップを始めると、2周目にわたってブレーキやタイヤなどに熱を入れ、3周目にアタックを開始。ホームストレートからS字区間のセクター1では全体ベストのタイムをマークすると、1分58秒706を記録。翌周もアタックを継続すると、ヘアピンやスプーンコーナーが含まれるセクター3では自己ベストを更新する。ただ、タイヤのグリップ性能はピークを過ぎていて、1分58秒738とタイムアップは果たせなかった。それでもA組の3番手で、予選Q2へバトンを繋いだ。

GT500クラスの予選Q1を挟んで実施されたGT300クラスの予選Q2は、18台が出走しポールポジションを競った。LC500 GTに乗り込んだ吉本選手は、予選Q1と同様に2周をウォームアップに充てる。





3周目にアタックを始めると得意のセクター1で全体ベストタイムをマークすると、後半のセクションもタイムを伸ばし1分57秒444を記録。

トップタイムには届かなかったが、計測された時点でタイミングモニターの3番手に表示される。1終盤には1台にかわされたものの、4位で予選を終えた。

ニューマシンにスイッチした今季は苦戦が続いていたが、5戦目にしてLC500 GTのパフォーマンスをしっかりと引き出し、明日の決勝レースでは今シーズン最高のグリッドからさらに上位を目指していく。

Team comment



Driver : 吉本 大樹

昨シーズンから思うようなレースができず苦労してきましたが、ようやく戦える状況になり非常に嬉しいです。5月に鈴鹿サーキットで行なったテストが好印象だったのですが、気温が上がってどうなるか不安な部分がありました。公式練習の走り出しは良いフィーリングとは言えず、セッションを通してアジャストを繰り返しました。エンジニアやチームが良い方向に導いてくれ、予選ではコースインのときからグリップ感があり好タイムをマークできました。大阪トヨペットグループのホームコースとも言える鈴鹿サーキットなので、明日の決勝レースでは多くのファンやお客さんの前で良い報告をしたいです。



Driver : 河野 駿佑

公式練習はセッションの後半から乗りました。吉本選手のコメントをもとにセットアップの調整を進めていき、最後の専時にニュータイヤでアタックしました。結果的には3番手のタイムとなり、今シーズンでもっとも手応えのある状態でした。予選に向けてはさらにマシンをアジャストしていく、予選Q1に臨みました。変わらずフィーリングは良かったのですが、セクター3でリアがナーバスなどころがありタイムロスしてしまいました。それでも3番手のタイムだったことと、予選Q1を突破するという役目を果たせて良かったです。LC500 GTになってから苦戦が続いていましたが予選で4位を獲得して、チームの雰囲気も明るくなっています。簡単に勝てるレースではないですが、明日は最低でも表彰台に登る意気込みで戦います。